



## 福井県

# ビオトープの再生を通して、地域の特性や持続可能性を考えよう

基にしたモデル的なプログラム	里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう
作成団体名	豊田市立西広瀬小学校
実証協力校等	坂井市立鳴鹿（なるか）小学校

SDGsの要素	 
ESDの要素	   
能力／態度	     

### ● プログラムの概要

学校には約10年前に造られたビオトープがありましたが、維持管理や調査活動が十分にされなかったため、外来種が優先し、池の水も富栄養化が進んでいます。また、児童は、ビオトープや生物、地域の自然への興味があまりない状況にあります。この授業では、「ビオトープの再生」を通して、地域の自然の変遷を知り、地域全体で人と自然の調和を目指すために、どのようなことが必要なのかを、体験を通して学びます。具体的には、ビオトープの生物調査や地域の高齢者へのアンケート調査等を行い、その結果と児童の提案を地域の大人に発信することにより、地域ぐるみでビオトープを再生し、様々な世代との交流によって、地区全体の持続可能性を高めます。

## ● プログラムの目標

学校で見られる生物を通して、命のすばらしさ、生物同士のつながり、人とのつながりを知ること、生き物の生活と人間の生活の調和を学びます。10年前に造られ、その後学習において十分には活用されなかった「ビオトープの再生」をテーマとし、問題発見力、建設的意見、実現可能性を養います。ビオトープの生き物について学ぶ際に、地域の自然の変遷を知り、理想のビオトープに近づけるための協働や、地域へのプレゼンテーションの力を身につけます。活動を通して、人の話を聞く力、重要なことを抜き出す力、書き取る力を身につけます。地域の自然と人との関わりを通して、持続可能社会の実現に主体性を持ちます。



冬の生き物の暮らしを観察しました。



自分たちにできること、発表。



みんなの観察記「ビオトープだより」

## ● 参加者の声

- ビオトープと鳴鹿を助けるために、活動に興味をもちました。
- みんなに自慢できる新しいビオトープを造る活動を続けたい。
- 生き物がすみやすいように自然は大切。
- だって鳴鹿の自然がなかったら、鳴鹿らしくないから。

## • プログラムの流れ

1 時間目	ビオトープって何?どんなところ?
2 時間目	今のビオトープには何がいるの? 野外活動・生き物観察
3 時間目	学校ビオトープの成り立ちを学ぼう!
4～5 時間目	ビオトープ再生の目標を決めよう!
6 時間目	ビオトープから季節の変化をとらえよう! 野外活動・生き物観察
7～8 時間目	昔の鳴鹿について知ろう
9 時間目	ビオトープの生き物について詳しく知ろう
10 時間目	学校全体をプロデュースしよう!
11～12 時間目	自慢できるビオトープにするには? 【映像】他のビオトープの事例 【映像】地域の自然の変遷、小学校のビオトープ